

平成23年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価報告書

学校園名 赤穂市立御崎小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

「確かな学力を身に付け、こころ豊かでたくましい児童の育成」を学校教育目標とし、知・徳・体のバランスがとれ、たくましく生きる力を身に付けた児童の育成をめざす。そのため、分かる授業づくりに向けた指導方法の工夫改善、楽しく心の居場所のある学校・学級づくり、健やかな心と体づくりの3点に重点をおいて取り組む。

また、今年度から中西播特別活動研究大会の指定を受けていることから、特別活動を中心に、よりよく生きるための自己決定力の確立と支え合える集団形成をめざすなど人間尊重の理念を大切にした教育実践を深め、家庭・地域と連携した信頼される学校教育の推進に努める。

総合的な学校園関係者評価

校長は、子どもたちにとって「楽しい学校、分かる授業、支え合う集団」づくりを柱によりよい学校をめざして具体的な目標を重点化し、評価結果を、学校の取組の改善につなげている。昨年度の反省を踏まえ、今年度の重点目標を設定し、評価結果からさらに次年度の改善の方策を明確に示している。PDCAサイクル機能を十分に活かしていると言える。教職員は、目標を意識して授業に取り組み工夫を重ねていることが、授業参観や行事から伝わってきた。来年度も、保護者や地域から更に信頼されるように、学校教育目標の具現化に向けた取り組みを心がけていただきたい。

2 本年度の学校(園)重点目標

- (1) 確かな学力を中核に、知徳体のバランスのよい人間力を育成する。
- (2) 道徳教育・体験活動を充実し、「豊かな心」をはぐくむ。
- (3) 共に支え合い、学びあう学級づくり・授業づくりをすすめる。
- (4) 児童・保護者・地域の期待に応え、相互の信頼感のもとで学校づくりを進める。
- (5) 地域の自然、歴史、文化を愛し、関わることを通してそのよさを語る。

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

領域	観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組) 評価指標および目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
学	開かれた学校づくり(家庭・地域との連携)	項目 指標 学校教育の情報発信・啓発 学校や学級の教育活動が、行事や学校(学年)通信、学校HPにより、家庭・地域に理解されるように努めた。	アンケート 教職員自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に、教育活動の取組について機会あるごとに情報発信を行う。 次年度も定期的にH.P.の更新を行い内容の充実を一層図る。 外部人材を活用した授業について保護者に発信し、外国語活動等での地域人材の活用を図る。 小中の連携を深める。 	◎	◎	総合的な学習の時間に地域の人材を活用したり、音楽会で中学校や高齢者大学のコーラス部を招待したりして交流を図るのは大変よいことだ。学校行事で地域の住民が学校の様子を知る機会も適切に設けられている。 小学校と中学校、幼稚園、保育所が1つの場所に隣り合っていて立っているため、ぜひ保幼小中で連携して子どもたちを指導して欲しい。特に、中学校とはつながりのある学習や生活の指導を進めて欲しい。
		項目 指標 地域の特色を生かした教育活動の推進 地域の人材を授業に活用するなど、住民参加型で家庭や地域の教育力を有効に活かす教育が推進できた。	アンケート 教職員自己評価 授業記録					
		項目 指標 異校種・学校間の連携教育の推進 保幼小中の授業交流や学校間での児童・生徒理解について連携した。	授業交流 教職員自己評価					
校	生徒指導	項目 指標 好ましい人間関係をつくる組織的な協力体制の充実 生徒指導委員会を中心に、好ましい人間関係づくりや生徒指導上の課題解決に、全職員が共通理解して指導を行ってきた。	児童の様子 教職員自己評価	B	<ul style="list-style-type: none"> 「御崎小3つの約束」について全職員で徹底を図り規範意識を育てる。 「あさがお運動」はまちづくり協議会と連携して意識化を図ってきたが、子どもたちが実践できるよう家庭での取組も進める。 支え合う集団作りと共に問題行動の早期発見、教職員の共通理解を進める。 	○	○	いじめ問題や不登校問題に対して保護者が不安を抱かぬように、児童へのきめ細やかな観察と声かけ、家庭との連携を次年度も一層密に進めて欲しい。 登校時、遅れてくる子どもを待っている地区があり、家庭への働きかけが必要ではないかと思われる。 「あさがお運動」が定着し、町づくりとPTAが連携し地域力を高めているが、子どもの自主的な実践を図りたい
		項目 指標 児童生徒の内面理解に基づく生徒指導の充実 児童の悩み いじめや不登校問題に対し、早期発見・早期対応に努めてきた。	児童の様子 教職員自己評価					
		項目 指標 「あさがお運動」の推進 家庭や地域とも協力し、「あさがお運動」の定着を図ってきた。	児童の様子、アンケート 教職員自己評価					
運	健康教育	項目 指標 健康意識向上と自己健康管理能力の育成 業間・昼休みの時間の外遊びや継続的な体力づくり運動、手洗いの励行等を進め、児童の健康管理意識の向上に努めた。	児童の様子 保健記録 アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 不登校傾向のある児童や問題行動のある児童にとって、保健室が心の居場所となっている点は大切にしながら、一層学校環境を整えていく。 親子食育教室への関心が高かったため継続実施する。また、家庭でテレビやゲームの時間が長いので、過ごし方を啓発する。 	◎	◎	運動会やマラソン大会で見る子どもたちの姿はいきいきしている。縄跳びの練習をしている姿もよく見かけ、子どもたちが活動的でよい。 携帯電話を持っている子どもたちやゲーム機を持っている子どもたちが増えている時代だ。学校でもインターネットの危険について指導してくれているが、一層指導を徹底させて欲しい。
		項目 指標 保健室の管理・運営 保健室の機能を生かした保健管理・保健指導、心の居場所づくりができています。	保健記録、児童の様子 教職員自己評価					
		項目 指標 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 推進委員会の計画に基づき、望ましい食習慣・生活習慣の定着に向け、家庭の協力を得ながら推進した。	アンケート 教職員自己評価					
営	安全教育 防災教育	項目 指標 防災教育・安全教育の実践 授業や防災訓練などで防災・減災の意義を伝え、児童の防災スキルや防災意識を高めている。	防災授業研究 避難訓練の実施 教職員自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練に継続して地震・津波の避難訓練や教職員の訓練を入れるなど、自然災害、人為災害に備える。「命を守る教育」を道徳や特活で行い、事故防止や不審者 対応のスキルの徹底を図る。 	◎	◎	登下校の安全確保にきちんと取り組み、学校・家庭・地域がよく連携している。 避難訓練は年に3回実施するだけでなく、津波避難訓練や要援護者の救助訓練も行い、防災意識を高める取組が行われている。今後も、防災体制の整備を地域との連携をきるような態度を育てることが必要である。 学校が心の居場所になっているのは、すばらしい。
		項目 指標 危機管理体制の整備と実践的な研修・訓練 防災計画や危機管理対応マニュアルに基づき緊急事態に対応できる。	校内研修会 教職員自己評価					
		項目 指標 児童の安全意識の向上 学校と家庭が連携して登下校指導や校外・校内生活指導を充実させ、児童の安全意識の向上に努めた。	児童の様子 アンケート					
組織運営	組織運営	項目 指標 学校の教育目標達成のための学校運営・責任体制の整備 よりよい学校、よりよい職員集団、よりよい自分になるためにプロ意識を持ち、意欲をもって職務・研修に取り組んでいる。	教職員自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営案に数値目標を設定し、達成度を学期ごとに確認し学校目標達成達成に向けて更に取組を進める検証方法を生み出す。 若い教員が先輩教師から学び、また、互いのよさを認め合える同僚性を構築する。 各自が学校の推進力としての責務を果たす 報告・連絡・相談体制の徹底を図り、学校の信頼を高める。 	◎	◎	学校の教育目標を意識して、学級経営に取り組んでいることが、自己評価からうかがえ、当初の目標は達成されているように思われる。研究授業を通して、課題への共通理解が図れているようである。 保護者は、学級目標に対する理解が乏しいので、保護者も巻き込んだ取り組みを改善策として検討することも必要ではないかと思う。
		項目 指標 教職員の共通理解に基づく学級づくり・授業づくり 教職員がよく連絡を取り合い、互いの学級経営の状況を把握し学年・学年部等でそれぞれの課題の共通理解を図りながら学級経営や授業を進めた。	教職員自己評価					
		項目 指標 学級経営の基本理念 児童が学校生活を楽しいと感じられるような支持的風土や学習習慣づくりに努めた。	教職員自己評価 児童の様子					
教職員の 資質と実践的 指導力の 向上	教職員の 資質と実践的 指導力の 向上	項目 指標 教育の専門家としての実践的指導力の向上 校内研究が計画的に推進できている。	研究記録 教職員自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が専門性のある個性豊かな教員をめざし、先進校視察や自己研修と知識の共有化を図る。 授業力の向上を目指し、研究授業や公開授業等を継続する。 	◎	◎	先生方は熱心に研修し、授業を工夫し、子どもたちも頑張っている印象を受けた。参観日にはすべての先生が自信を持って、大きな声で望んで欲しい。研究授業や研修が計画的に進んでいるのは安心できる。外部の関係者にもそれが伝わると理解が深まるであろう。
		項目 指標 研修したことの共有化と共通理解 社会の変化に対応した教育の創造に向けて進んで研修し、自己を高めるようにしている。	教職員自己評価					

